

福井県で役員研修会 継体天皇 即位前の史跡を訪ねる

令和5年10月17日から18日にかけて、「宿場町枚方を考える会」の役員研修会として福井県を訪ねました。

枚方市には継体天皇が即位した樟葉宮があり、令和5年5月21日の「近郊の史跡を歩く会」では真の継体天皇陵といわれている今城塚古墳へ、6月18日の歴史講演会では「古代の淀川水運 継体大王をめぐって」を開催しました。

いずれも即位後の事柄であり、役員研修の主な目的は、即位前に在住していた越前国（福井県）の史跡を訪ねることにありました。なお、自主参加



楠葉宮跡伝承地碑

であり、経費は全額参加者負担です。

まず始めに伝承地碑を紹介します。ご存じの方も多いと思いますが、枚方市楠葉丘2丁目にある交野天神社本殿から北東80m、末社貴船神社への階段脇にある高さ約1mの

日本書紀によると、継体天皇は507年に樟葉宮で即位しました。大阪府が昭和46年3月31日に「継体天皇樟葉宮跡伝承地」として史跡に指定しています。

伝承地碑の傍らには枚方市教育委員会が平成16年に設置した説明板があります。

具体的な場所として「樟葉宮跡と伝えられているのは枚方市指定文化財となっている



第97号

発行

宿場町枚方を考える会
会長 上谷 勝己
枚方市船橋本町2-87-7
072-857-2995

編集 広報委員会

主な内容

- 継体天皇即位前の史跡を訪ねる（1頁～3頁）
- 伏見城の史跡を訪問（4頁～5頁）
- 牧野村にみる先見性（6頁～12頁）

石碑です。

正面には「此附近継体天皇楠葉宮地」、右側面に「昭和四年三月建立 大阪府」と記されています。



馬來田善敬 氏

いわれています。
男大迹王が継体天皇として即位するため、越前国を離れるにあたり、「末永く此の国の守神に成らん」と、自らの御生霊を祀り、娘の馬來田皇女（うまくだのひめみこ）を齋主して祭事を託しました。
皇女には子がいなかったため、甥を後嗣とし、男系で代々神職を務めました。案内にいただいた福井市歴史ボランティア「語り部」によると、現在の宮司である馬來田善敬（まくたよしもり）氏は、皇女から60代目に当たるそうです。気さくなお方で記念撮影にも応じて下さいました。

昭和23年の福井地震で倒壊しましたが、27年に修復されました。足羽山の山頂（標高116m）、足羽山公園三段広場に立っています。笏谷石



足羽神社から北東280mにあります。継体天皇の偉業を顕彰するため、笏谷石の石工らが明治17年（1884年）に建てた石像です。

継体天皇像



製で高さは4.3m。4等身なのは、見上げても顔の表情がわかりやすいとの配慮からと思われる。

逆光のため修正しましたが、これが限界でした。右の全体像は台座をカットしています

おことわり

・出典により記載内容が異なっている場合があります。

洪水が収まるよう、男大迹王が足羽山から海に向かって矢を放つと、福井平野を覆っていた水が海の方へ引いたという伝説により、像は九頭竜川河口に向かって福井平野を見守るように立っています。

ボランティア「語り部」が示された石像の原画。福井市立郷土歴史博物館蔵。



楠葉と樟葉

どちらも読み方は「くずは」、「楠」と「樟」は時代によって異なりま

継体天皇

第15代応神天皇の5世孫。日本書紀によると450年ごろ、近江国高嶋郷（現在の滋賀県高島市）で彦主人王（ひこうしのきみ）の子として生まれました。幼くして父を亡くし、母・振媛（ふりひめ）

大王と天皇

古代の大和朝廷時代は「大王（おおきみ）」、天皇と呼称されたのは大化の改新（645年）以後、天武天皇期ごろが有力視されています。

皇子女がなかった第25代武烈天皇が506年、後嗣を定めず崩御したため、大伴金

足羽神社



前段が長くなりましたが、ここから即位前に在任していた越前国（福井県）の史跡です。まず、継体天皇が即位前に建立した足羽神社（あすわじんじや）を訪ねました。JR福井駅から西南西1.2km

村、物部鹿火らの有力豪族の推戴を受け、58歳だった507年に樟葉宮で第26代天皇として即位しました。



足羽山の山腹、福井市足羽1丁目にあります。
現在の社殿は、昭和20年の福井空襲、23年の福井地震を経て34年に整備されたものです。さらに平成19年には、「継体天皇即位千五百年奉祝記念」に伴って社殿の増改築が行われました。

継体天皇が男大迹王として越前にいたとき、治水工事の安全を祈願するため、朝廷に祀られていた坐摩神（いかすりのかみ）を勧請して創建したもので、越前最古の神社と

「伏見桃山城キャスルランド」は、入園者の減少により債務超過となり、平成15年に閉園、模擬天守は京都市に無償で贈与されまし



光在任中の元和5年(1619年)に廃城が決定し、取り壊しや移設がされました。私たちが現在見ている城は、昭和39年に開園した「伏見桃山城キャスルランド(遊園地)」の園内に建設された模擬天守です。



伏見城の周辺には多くの武家屋敷がありました。そのため、現在も武将の名が付いた町名があります。左の写真「語り部」のガイドさんが説明しているのは家康の四男、松平忠吉屋敷跡です。

武家屋敷跡

た。市は跡地を伏見桃山城運動公園として整備しましたが、模擬天守は耐震基準を満たしていないため、内部は非公開となっています。

明治天皇伏見桃山陵



令和5年秋 近郊を歩く会

伏見城の史跡を訪問

三栗 石川 勲

令和5年春の「近郊の史跡を歩く会」では高槻市の今城塚古墳を訪ねました。秋は令和5年11月5日に伏見城の史跡を訪問しました。

観光協会の「語り部」3人が同行、ガイドいただきました。

御香宮神社

当日は午前9時に京阪「伏見桃山」駅の改札口付近に集合する予定でしたが、8時23分に人身事故が発生、全線運転見合わせと遅延、ハプニングに遭遇しました。参加者29人が御香宮神社(ごこうのみやじんじや)に向かったのは10時を過ぎていました。なお、伏見区

「伏見桃山」駅から東に300mにあります。主祭神は神功皇后、安産の御利益があるといわれています。豊臣秀吉が伏見城の城内に移し、鬼門の守護神としましたが、徳川家康が元の位置に戻し、京都所司代板倉勝重が本殿を造営しました。現在の表門は元和2年(1622



年、徳川頼房(水戸黄門の父)が伏見城の大手門を拝領して寄進したものです。

明治天皇伏見桃山陵

御香宮神社から北東1.3kmにあります。豊臣秀吉が慶長伏見地震で倒壊した伏見城を再建した木幡山伏見城本丸跡で、明治45年7月30日に崩御した明治天皇が埋葬されています。上円下方墳で、下方は一边60m、表面は細石(さざれいし)で覆われています。

伏見城

伏見城は三度築城されています。まず、豊臣秀吉が指月伏見城(しげつふしみじょう)を、続いて木幡山伏見城(こはたやまふしみじょう)を築城、さらに徳川家康が木幡山に再建しています。

その間、地震や戦乱により崩壊、焼失し、最終的には一国一城令の主旨から、徳川家

再び燃える牧郷魂

牧野村にみる先駆性

交野市 堀家啓男

秀吉による農村支配

戦国の動乱は信長の上洛（1568年）によって一段落を迎えます。続く秀吉の天下制覇、地方支配により、牧郷の荘園制は完全に崩壊しました。秀吉は、戦乱で無主となった村々の自主独立を許さず、検地（文禄2年、1593年）を行い、村高を決めて年貢制を導入しました。寺内町であった招堤村でさ

え、秀吉の直領として検地帳が作成されました。宇山村、甲斐田村、片鉾村も文禄3年末頃の検地帳が残っており、村高が決定されて年貢地となりました。

秀吉は天正16年（1590年）、地侍、郷士などから武器を取り上げ、刀狩を行いました。一揆を防ぎ、村を年貢負担組織に変えるのが目的です。この制度は家康の幕藩体制に引き継がれ、より強化されます。近世、牧郷の村々は領主

が支配する農村へと変化しました。

牧郷領主の変遷

徳川幕府の初期、京街道沿いの牧郷の村は、戦乱の名残として武力を評価された直臣淀藩主永井尚政の領地となりました。その後、幕府の直轄地もでき、また小田原藩主大久保家の復活（1685年）の際、大坂近辺に領地を与えられ、牧郷の村を与えられて

います。幕末には、京都守護職会津藩への役知（今風に言えば役職手当）として牧郷の一部の村が与えられました。

鳥羽伏見戦争の被害 徳川幕府の終焉

大政奉還の後、慶応4年（1868年）1月3日、鳥羽伏見の戦いが勃発します。敗北した幕府軍は京街道筋を敗走し、大坂へ落ち延びました。道筋の牧郷の村々はこの戦乱に巻き込まれます。

6日には、街道筋の楠葉、野田などが放火され、炎上しました。6日午後には、上島村の吉川家に流れ弾が飛び込み、村中残らず避難します。阪（坂）村周辺では、放火を恐れ、米を持ち出して避難、男は人足徴発を免れるため身を隠しました。幕府軍の一部

が阪の旗本水野家陣屋の北側崖に大砲を備えましたが、藤堂藩の橋本への砲撃に驚いて逃亡します。楠葉台場（現国史跡）にいた若狭藩士は、阪村の百姓宅の家族に切りかかりたうえ自害しています。



楠葉台場跡
楠葉中之芝2丁目

幸いにも牧郷周辺での放火は免れました。下島、長尾、渚などでは、落ち武者が百姓に打ち殺されています。また、上島村では長州藩による落ち武者狩りが行われ、旧幕臣が斬首されています。

1月12日には、枚方宿高札

に「徳川家朝敵之御書付」が掲げられ、13日には交野郡にある旗本の陣屋が廃止されました。ようやく村人らが立ち返り、牧郷の村々の日常が取り戻されました。

地租改正

新政府は年貢制を廃止して、土地の所有者から金銭を税として徴収することになりました。明治5年（1872年）地券制度を実施し、土地所有者を確定、納税すべき土地と人を特定しました。石高制を廃止、土地の所有者による地租の納付としたのです。

地方制度の導入

明治22年（1889年）4月、政府は地方行政を整えるため、現代の地方行政の基盤

となる、市制、町村制を施行しました。先立つ同21年6月、内務大臣訓令により、町村合併の標準を示し、全国各村の資力や区域、戸数などを調査、新たな町村が独立自治に適した資力、人口規模となるよう村の合併を促進しました。旧来の集落はその「字（あざ）」となりました。

明治31年（1899年）に郡制が施行され、茨田、讃良、交野の3郡を統合し、北河内郡となりました。また、町村制施行の結果、枚方では全37カ村（磯島村を含む）が、1町9カ村となりました。

牧郷周辺の村

（町村制実施時／明治22年）

新町村名 構成する字（あざ、旧村名）

◎川越村：村野、田宮、山之

上、茄子作

※村を天野川が貫通し、川を越えて村域をなすため「かわごし村」。

◎山田村：甲斐田、片鉾、田口、中宮

※かつて山田郷と呼んだ。

◎牧野村：禁野、磯島、渚小倉、阪、宇山、養父、上島、下島

※かつて摂関家領「楠葉牧」に属し、牧（野）郷として発展した集落であるから「牧野村」とした。

「禁野」の地名は、かつて交野ヶ原南部に天皇や貴族専用の猟場があり、一般人の狩猟を禁じた野に由来しています。禁野の枝郷として大垣内があります。禁野の垣があつたからです。

「渚」は、淀川沿岸の浜（港）として発展しました。惟喬親王の「渚の院（枚方市渚元町）」

常小学校が高等科を併設、招堤尋常高等小学校となります。

禁野火薬庫の設置

牧野周辺は、「禁野」があった関係からか、他の地域より開発がやや遅れ、原野が多く残っていました。そのためか、適地として明治29年(1896年)、牧野村大字渚の禁野の地に「陸軍禁野火薬庫」が設置されました。明治42年には、火薬庫の爆発事故が起こり、警備の兵士の負傷のほか、周辺民家にも相当の被害が及びました。火薬庫の撤去を求め、声もありましたが直ちに復旧され、さらに増強されました。昭和12年(1937年)にはその隣接地に枚方兵器製造所が建設、着手され、同13年(1938年)1月には生産を開始しました。

同14年(1939年)1月には交野ヶ原の南、香里(中振、茄子作)に、宇治火薬製造所香里工場が開設されました。交野ヶ原は軍需3施設がある軍需の地となりました。そしてあの禁野火薬庫の大爆発(2回目)は同年3月1日に起こりました。

京阪電車の開通

明治43年(1910年)4月15日、淀川左岸住民の悲願であった鉄道敷設が京阪電車



の開業で実現しました。京都五条と天満橋間30駅、所要時間100分、現在の枚方エリアでは、樟葉、牧野、枚方東口(現在の枚方市)、枚方(現在の枚方公園)の4停留所が置かれました。

政府の指導により、路線は旧街道沿い、道路の補完とされたため、京阪電車はカーブが多いといわれています。牧野駅も京街道沿いに置かれています。



開業後、京阪電車には事故が多発し、そのため乗客数が

伸びず、乗客増対策が必要となりました。昭和6年(1931年)、京阪電鉄は牧野村と連携して、駅の近くに住宅地を開発しました。乗客を増やすためです。現在の「牧野本町1丁目(この地名もこのときつけた)」辺りです。

「牧野昔ばなし集」には次の話が載っています。

「私が越してきたとき、牧野の駅は電車一台がとまるだけ、京阪の電車は「高床式で地面から乗れない。駅のプラットホームも最初はなく、電車の入口だけ木の箱みたいな物を積んで、そこへパッと停めていた」、昭和3、4年に歯科医専、女子医専が来てから、ちよつと駅がマシになった」。

「畑と藪ばかりでした。この竹藪を買って京阪が住宅地を開発したんですね」。(昭

が設けられ、後鳥羽上皇も御幸しています。平安期には都の貴人らが渚に上陸して「禁野」に向かいました。荘園期は交易の港でした。「渚の院」跡に、町村制施行時の牧野村役場が置かれていました。



「磯島」は対岸の摂津国島上郡に属し、淀川河道上の島でした。その後、地縁的に牧郷と近く、京街道(文禄堤)沿いに進出し発展しました。明治7年(1874年)に河内国に編入、神社の境内にその名残である「摂津国」と刻んだ鳥居が残っています。

「上島」「下島」も元は淀川

の一つの川島でしたが、文禄堤、京街道が地域を横切り、集落として発展しました。元和(17世紀前半の元号/慶長と寛永の間)になって上島(京都側)、下島に分かれました。

「宇山」は古くは上山とあったようで、元和元年から宇山と称しました。「牧」の一部でやや高地だったのでしょう。

「養父」は、「藪」があった地を開発した有力者が、「やぶ」と名乗り、美字を当てたのかもしれない。物部氏の一部が住み着き、養父氏を名乗ったともいわれています。

「小倉」は、茨田屯倉の名残という説や、栗倉だったという説もあります。「牧」の時代、物品の倉庫があったのでしょうか。

阪(坂)は、「牧」の時代、穂谷川沿いの坂(傾斜)地で

小学校の設置

◎明治の初め、寺子屋が廃止され、各地に「郷学校」が設立されました。明治5年(1872年)、牧野周辺では「7区郷学校」が阪村の片埜神社境内に設立されました。明治6年には郷学校を基礎に小学校が設置されました。同8年、渚、小倉、阪が連合し、渚二

栗の清伝寺で開校、同10年に渚観音寺跡に校舎を新築し、磯島、禁野も加わりました。同20年(1887年)4月に牧野尋常小学校となります。同24年、渚字北上野に新築移転し(現在の殿一小の位置)高等科を併設、牧野尋常高等小学校となりました。村内唯一の小学校で、校区が広く遠距離通学の難がありました。

◎明治5年(1872年)、7区郷学校分校が招堤敬応寺で開校、同6年に招堤の小学校となりました。その後、村内で校舎を新設、同20年(1887年)4月に招堤尋常小学校となりました。同20年、交北高等小学校が組合立で設立、同33年(1900年)には、町村制に即した制度に改正、尋常科4年制義務教育と高等科2年制が確定しました。同40年(1907年)に招堤尋



ねましたが、門が閉ざされて境内に入れませんでした。招堤尋常高等小学校も大きな被害を受け、両校とも建て替えが必要となりました。このため両校の校舎の新築と従来の課題であった牧野小の児童の遠距離通学を合わせて解決するため、さらに経費調達のため、両校は合併することになりました。

牧野小は、元の位置に殿山第一小学校（上野1丁目）として新築されました。

次の話も「牧野昔ばなし集」に載っています。

「今でしたら、情報がテレビやラジオで放送されるさかい、学校（牧野小）行くことなかったやろうけれど、その時分は、（えらい風やなあ）と言いつて学校へ行った」。

室戸台風 恐怖の瞬間

室戸台風〈昭和9年9月21日〉

911. 6ヘクトパスカル

午前5時頃、室戸岬西方付近に上陸、瞬間最大風速60m以上。午前8時頃、阪神間に再上陸、高潮、大風の大被害を残した。通学時と重なり、府下で多くの木造校舎が倒壊し、教員、児童の犠牲者を出した。

住宅都市による 平和な街づくり

終戦後、枚方市は軍需工場の跡地に工場誘致を目指しま

招堤小学校は旧牧野村エリアに移転、殿山第一小学校（養父丘2丁目）として新築し、牧野小の遠距離通学を解消する学区調整を行いました。校舎新設経費は、両校合併による人件費削減などにより捻出しました。天災を機会に両村が知恵を出し合い、思い切った学校の復興を成し遂げたのです。楠葉牧に遡る荘園時代の小さなことに拘らない住民の合理性が表れたのでしょうか。

御池という池があり、「池の前に南北の平屋の教室があつて、私そこにいたんですわ。東西の2階建ての校舎の方に職員室なんかみなあつたんですわ」。先生が「そこへ行け言わはりましたん」ところが急に「逃げよ」言わはったもんで逃げました。裏が芋畑と茶園でそこへ逃げた。逃げた直後に校舎（東西棟）がこけました」。

枚方町出来る

昭和13年（1938年）、殿山町は枚方町ら6町村と合併し、人口が2万6千人を超える枚方町となり、「大大阪」に準じて新聞で「大枚方」と称されました。

その起爆剤となったのが学術文化の先進性、思い切った施策の実施という牧野村（大牧野）の存在だと思いますが、いかがでしょうか。牧野の魂を受け継いだのです。終戦後の昭和22年（1947年）8月1日に枚方市制が施行されました。

和9年の朝日新聞に牧野の住宅地販売の広告が掲載されている。

「牧野駅なんか停まっても乗る人も降りる人も一人か二人ぐらいでした」。牧野駅は「無人駅で車掌が切符を売って、降りしなに切符を集めた」「夜は八時すんだらほとんど降りる人がおらんかった。女の人が一人で出たとしたら、日が暮れたら招堤の人でも家の者が駅に提灯つけて迎にいった」。

京阪のストアの所は池があつた。「食用ガエルが鳴いとつた」。

バスの道路は「竹藪でしてん」「前はもつと細くて齒科大が来たときに通学路としてつくつたんです」。

トップセンターのところも池で「その池つぶしてトップセンター建ってますねん」。そ



牧野時代の魂を今に

これから生涯学習センターのあるところまで低く、田んぼが広がっていた。

昭和3年（1928年）、京阪電鉄と牧野村が連携し、宇山に日本で3番目の大阪女子高等医学専門学校（現関西医科大学）を、また阪に大阪歯科大学を、また阪に大阪歯科大学を誘致しました。



同4年（1929年）には、大阪市内にあつた大阪美術学校（大正13年創立）を御殿山に誘致しています。いずれも京阪電車の乗客増対策の一環ですが、地元牧野村の協力が不可欠でした。美学校生の通学のため、御殿山駅が同年6月設置されたのも特筆すべきでしょう。

殿山町の誕生

の時期の牧野村は、牧野時代の魂が再び燃え上がるかのようでした。昭和13年（1938年）には女子医専の講堂に府立大阪博物館美術館（見本市会場／大阪市中央区）の天井画（龍鳳凰の図）が移管、竣工しています。

牧野村は、医学、美術の専門教育機関がある「学校村」として、その先駆性が大きく脚光を浴びました。

人口わずか3600人ばかりの牧野村がこれだけの教育機関を持ったのです。当時の朝日新聞記事は、牧野村をインテリ村と記しています。こ

昭和9年（1934年）9月21日、（第二）室戸台風が関西を襲いました（関西風水害という）。牧野小と招堤小の被害が大きく、この復旧問題がきっかけとなって、昭和10年（1935年）2月11日、両村は合併し、殿山町となりました。この台風で牧野尋常高等小学校が倒壊、教職員2人、児童15人の大きな犠牲者がありました。供養塔が小倉町の長安寺にあるというので訪

した。

中宮では昭和27年に小松製作所への払い下げが認可され、トラック、ブルドーザーなどの製造を行うとのことでした。しかし、同社は25年(1950年)に始まった朝鮮戦争の米軍砲弾製造に参入し、旧枚方製造所の施設の払い下げを受けようとしていました。

火薬庫大爆発を経験した市民から兵器製造反対の気運が高まり、急進派が工場内に爆弾を仕掛けるなど、「枚方事件」(1952年)が発生する事態となりました。

香里についても、民間会社が火薬製造を目的に払い下げを申請しました。しかし、市が払い下げを受け、住宅街とする計画があり、また市民による「火薬製造所活用反対同盟」もできたため、見合わせとなりました。

香里製造所の遺構、天を衝くボイラー用の煙突。現在の妙見配水池敷地内北側／香里ヶ丘8丁目。



住宅公団(昭和30年1955年設立)は設立の年、禁野(中宮第1、第2団地)、香里(ニュータウン計画)の跡地に住宅8000戸を建設する計画を立て、枚方市に協力を求めてきました。平和を基調とする住宅による街づくりが始まったのです。

会員を募集しています

本会は、年数回の講演会や観光バスを利用した他宿場などの日帰り見学会の実施、機関誌(本誌)を発行しています。

会費は3600円(1年度)です。入会をお待ちしています。ご希望の方は、ホームページをご覧ください。

ホームページを開設しています

本会をよりご理解、ご賛同をいただくため、事業内容、入会案内などを掲載しています。

HP <https://syukubamachi-hirakata.com>

宿場町枚方を考える会



検索してね!

